

自律移動支援プロジェクトの推進

平成17年2月

国土交通省

「いつでも、どこでも、だれでも」利用できるシームレスな情報環境をオープンシステムでつくりあげる

発想の転換で、
今まで主にモノに貼付されてきたICタグを
場所にくくりつけると……

初めて訪れた町で魅力ある情報を発見



出発前に安心・安全ルートを確認



聴覚障害者にも振動や文字で情報を提供



緊急時にSOSを発信



視覚障害者にも最後の一步まで親切に誘導



英語など多言語で親切に案内



「移動経路」「交通手段」「目的地」などの情報について、「いつでも、どこでも、だれでも」アクセスできるユビキタスな環境を構築し、誰もが持てる力を発揮し、支え合ってつくる「ユニバーサル社会」の実現

システム構築のコンセプト

①オープンなシステムでつくりあげる

～わが国のICタグなどの先端技術力を、オープンな環境を活かし、世界に発信！

- 神戸での実証実験で技術を研鑽

②汎用性・拡張性のあるシステム

～いつでも、どこでも、だれでも

- 障害者の自律的移動のサポート
- 健常者も外国人も、容易にアクセス
- 災害時、救命救急などへのSOS発信、救援支援

③国際標準(Global Standard)をめざす

- 全体システム、要素技術に関する国際標準

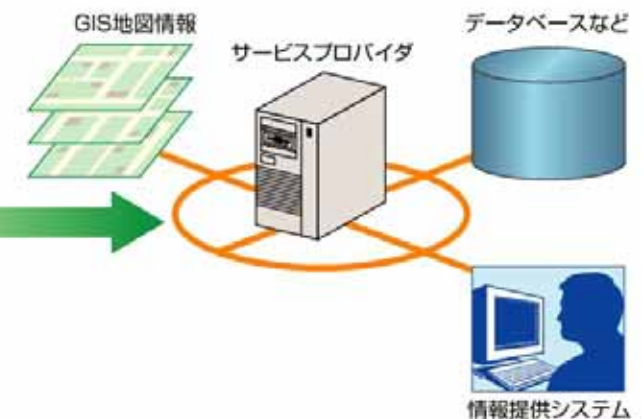
10年後のシステムの
定着を見据え、
産、学、官、市民の知恵の結集

自律移動支援プロジェクト システムの概要



検討の手順

- ① ユーザーニーズの把握
- ② 情報提供内容と提供方法の検討
- ③ タグなど通信機器、受信機器
- ④ コンテンツの検討



実証実験を行うことで

- ①実空間での技術研鑽により、確かなシステムを構築できます。
- ②システムを地域の人びと、民間の人びとが参加し、創りあげていくことができます。
- ③市民の人びとの意見を聞き、ユーザーに使いやすいシステムを構築できます。
- ④システムの内容を国内外に広く情報発信できます。

実証実験は神戸で

神戸で実施する背景

- 阪神淡路大震災の経験をこれからの日本の社会に活かす。
 - ・6,400人以上の尊い命を失った大震災を乗り越え、すべての人の協力と「和」の中で、まちづくりが進められています。
 - ・震災の経験をもとに、神戸がユニバーサル社会実現へ向けた新しい考え方を提示することは、震災時に神戸を支えてくれた全国の地域・人びとへの貴重なメッセージになります。
- 震災後10年の節目の時に、「災害に強い安心なまちづくり」へと新しく生まれ変わろうとする神戸の思いを、世界へ発信することは意義深いといえます。
- 神戸は、陸・海・空の交通が交わり、海外からも多くの人を訪れる国際観光都市です。
- 「チャレンジド・ジャパン・フォーラム (CJF) 国際会議in こうべ」の開催が予定されています。

自律移動支援プロジェクト プロジェクトの体制

自律移動支援プロジェクト推進委員会(坂村委員長)

場所情報検討専門委員会(委員長:大石プロジェクト顧問)

サービスWG(座長:坂村委員長)

移動支援項目・方法等サービスに関する検討

技術検討WG(座長:坂村委員長)

位置・場所情報提供の技術に関する検討

神戸プロジェクトチーム(神戸) スーパーアドバイザー:坂村委員長
竹中委員

神戸実証実験WG(座長:近畿地方整備局企画部長)

実証実験内容等神戸実証実験に関する検討

自治体サポーター

自治体名	所 属	役 職	氏 名
北海道	建設部	部 長	山上 徹郎 氏
青森県	県土整備部	部 長	羽原 伸 氏
岩手県	県土整備部	部 長	橋本 義春 氏
宮城県	企画部	部 長	伊東 智男 氏
千葉県	総合企画部	理 事	飯田 耕一 氏
東京都	建設局	企画担当部長	野村 孝雄 氏
岐阜県	都市整備局	局 長	林 正勝 氏
愛知県	建設部	部 長	安田 勝一 氏
京都府		(調整中)	
大阪府	土木部	部 長	小河 保之 氏
高知県	土木部	部 長	見波 潔 氏
佐賀県	東京事務所	所 長	村山 龍彦 氏
長崎県	東京事務所	所 長	小野 道彦 氏
熊本県	土木部	部 長	松原 茂 氏
宮崎県	東京事務所	所 長	黒木 郁雄 氏
名古屋		助 役	塚本 孝保 氏
大阪市		助 役	大平 光代 氏
北九州市		助 役	宮崎 哲 氏
三鷹市		助 役	河村 孝 氏
横須賀市		副市長	蒲谷 亮一 氏
厚木市		助 役	都高 泉 氏
豊田市		助 役	菊地 春海 氏
岐阜市		助 役	松谷 春敏 氏

本省関係部局連絡会(座長:松浦政策調整官)

連絡会関係部局: 大臣官房、営繕部、総合政策局、情報管理部、
国土計画局、都市・地域整備局、河川局、
道路局、住宅局、鉄道局、自動車交通局、
海事局、港湾局、航空局、北海道局、政策統括官、
国政研、国総研、地理院

参画サポーター
63社・団体

委員会構成

委 員 長

坂村 健氏 (東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授)

プロジェクト顧問

大石 久和氏 (早稲田大学教授)

月尾 嘉男氏 (東京大学名誉教授)

委 員

川嶋 弘尚氏 (慶応義塾大学理工学部管理工学科教授)

後藤 省二氏 (三鷹市市民部調整担当部長)

竹中 ナミ氏 (社会福祉法人プロップ・ステーション理事長)

長谷川 貞夫氏 (日本点字図書館評議員)

長谷川 洋氏 (筑波技術短期大学電子情報学科助教授)

福島 智氏 (東京大学先端科学技術研究センターバリアフリー分野助教授)

井戸 敏三氏 (兵庫県知事)

矢田 立郎氏 (神戸市長)

上野 宏氏 (国土交通省政策統括官)

浜口 達男氏 (国土交通省国土技術政策総合研究所長)

矢口 彰氏 (国土交通省国土地理院長)

藤本 貴也氏 (国土交通省近畿地方整備局長)

谷口 克己氏 (国土交通省近畿運輸局長)

トータルコーディネーター

佐藤 信秋氏 (国土交通省技監)

オブザーバー

吉岡 淳氏 (内閣官房都市再生本部事務局参事官)

室城 信之氏 (警察庁長官官房参事官)

藤本 昌彦氏 (総務省総合通信基盤局電波部移動通信課新世代移動通信システム推進室長)

江波戸 一敏氏 (厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部社会参加推進室長)

藤本 康二氏 (経済産業省商務情報政策局サービス産業課医療・福祉機器産業室長)

自律移動支援プロジェクト サポーターリスト

平成17年2月9日現在

番号	企業名称
001	DDIポケット(株)
002	KDDI(株)
003	(株)NTTデータ
004	(株)インスパイア
005	エヌ・ティ・ティ・インフラネット(株)
006	エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)
007	(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ
008	(株)エヌ・ティ・ティ・ネオメイト
009	沖電気工業(株)
010	カシオ計算機(株)
011	(社)関西経済連合会
012	関西電力(株)
013	京セラ(株)
014	交通 エコロジー・モビリティ財団
015	(社)交通バリアフリー協議会
016	神戸商工会議所
017	(株)神戸デジタル・ラボ
018	(財)港湾空間高度化環境研究センター
019	国際航業(株)
020	(株)国際電気通信基礎技術研究所
021	(株)昭文社
022	独立行政法人 情報通信研究機構 けいはんな情報通信融合研究センター
023	住友電気工業(株)
024	セコム(株)
025	(社)セメント協会

番号	企業名称
026	(株)ゼンリン
027	大日本印刷(株)
028	(株)竹中工務店
029	定期航空協会
030	(財)鉄道総合技術研究所
031	東海旅客鉄道(株)
032	東京急行電鉄(株)
033	東京電力(株)
034	(株)東芝
035	東陶機器(株)
036	(株)ドーソン
037	凸版印刷(株)
038	トヨタ自動車(株)
039	西日本電信電話(株)
040	西日本旅客鉄道(株)
041	日本オラクル(株)
042	日本信号(株)
043	(財)日本地図センター
044	日本電気(株)
045	(財)日本デジタル道路地図協会
046	(社)日本プロジェクト産業協議会
047	日本郵船(株) (株)MTI
048	(社)日本旅客船協会
049	(株)パスコ
050	阪急電鉄(株)

番号	企業名称
051	阪神電気鉄道(株)
052	東日本電信電話(株)
053	東日本旅客鉄道(株)
054	(株)日立製作所
055	富士通(株)
056	(有)ブライト・シティ・ジャパン
057	ボーダフォン(株)
058	マイクロソフト(株)
059	松下電器産業(株)
060	三菱重工業(株)
061	三菱電機(株)
062	(株)ムーブ
063	(株)鷹山

自律移動支援プロジェクト プロジェクトのスケジュール

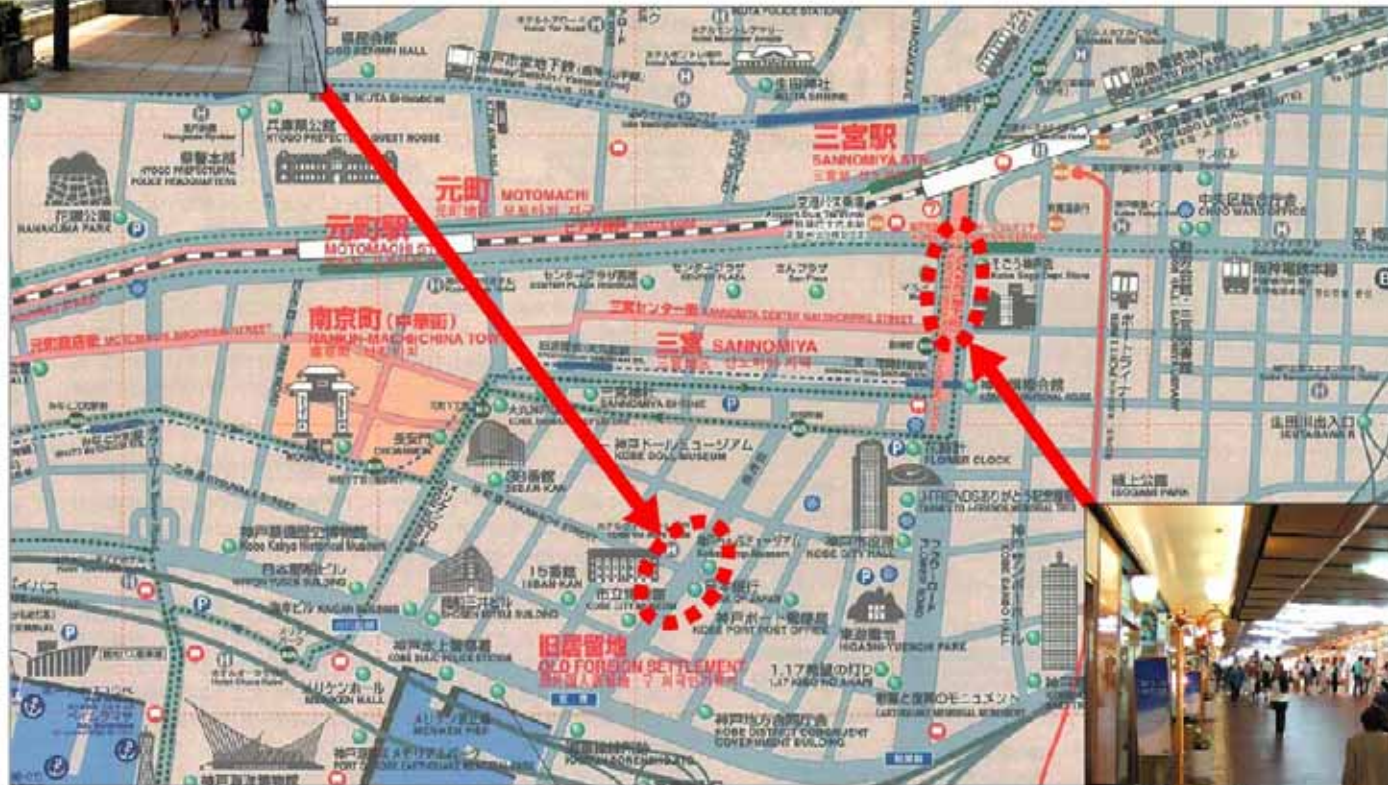
	平成16年度												平成17年度				平成18年度以降
	H16 3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	H17 1	2	3	4~6	7~9	10~12	
委員会開催	○第1回 (H16. 3. 24)			○第2回 (H16. 6. 18)				○現地視察 (H16. 9. 30) ・神戸プレ実証 実験の委員会 視察 ・懇談会の開催					●第3回 ・プレ実証 実験の報告 ・実証実験 方針の決定等	●第4回		●	●
			○第1回神戸PT会議 (H16. 5. 26)								○第2回神戸PT会議 (H16. 12. 13)		●第1回 場所情報検討専門委員会(H17. 2. 15)			●	●
WG				第1回(H16. 6. 10)				WG順次開催									
デモンストレーション	○東京(H16. 3. 24)									○ITS世界会議への出展(H16. 10. 19~24)							
			○神戸(H16. 5. 26~28)					○神戸(H16. 9. 30) プレ実証実験開始式									
実証実験など								プレ実証実験(神戸) (10月~1月適宜実施)									
愛知万博																	
関連事項																	
											</						

自律移動支援プロジェクト 平成16年度 プレ実証実験箇所



京町筋

- 場 所:さんちかタウン(地下街の通路)
京町筋 日銀前交差点(交差点及び前後の路上)
- 期 間:平成16年10月～平成17年1月(9月30日開始式)
- 内 容:ICタグ、赤外線、無線等の機器の通信安定性等を確認



さんちかタウン

自律移動支援プロジェクト プレ実証実験開始式 9月30日



プロジェクト推進委員会の委員でもある矢田神戸市長からのご挨拶



テープカット(奥から、上野政策統括官、大石プロジェクト顧問、赤羽衆議院国土交通委員長、坂村推進委員会委員長、井戸兵庫県知事、矢田神戸市長、竹中推進委員会委員)



ICタグ内蔵の視覚障害者用誘導ブロック



案内表示板にICタグを貼付



店舗情報を発信



無線による情報提供

自律移動支援プロジェクト プレ実証実験デモンストレーション(京町筋日銀前交差点)



携帯端末に表示された内容の説明(左: 赤羽衆議院国土交通委員長、右: 坂村推進委員会委員長)



車いすによるデモンストレーション



報道関係者への
プレ実証実験の概要説明



視覚障害の方による体験
(左: 長谷川貞夫
推進委員会委員)

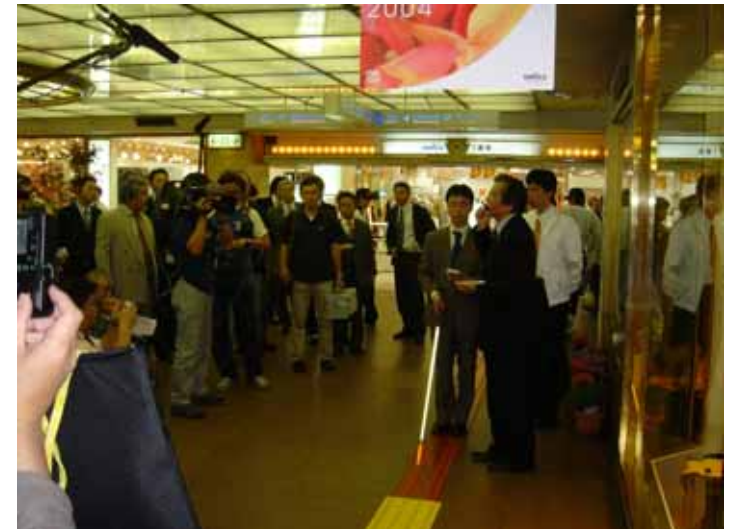
自律移動支援プロジェクト プレ実証実験デモンストレーション(さんちかタウン)



ICタグに携帯端末を近づけると、店舗情報を表示



車いすによるデモンストレーション



移動しながら報道関係者へ説明

平成16年9月30日(木)

朝日新聞(夕刊) 14面

平成16年9月30日(木)

神戸新聞(夕刊) 10面

**障害者移動支援
新システム実験**
神戸で国交省
国交省は30日、障
害者や外国人がIT機器
を使って街を自由なく
移動できる「自律的移動
支援プロジェクト」の実
証実験を神戸市内で始め
た。同省によると、こ
うした実験は全国初。来年
4月から、対象を広げた
本格実験に移る。

街のあちこちに組み込
まれたICタグ(電子荷
札)から、携帯端末に現
在地や商店などの情報を
取り込み、バリアフリー
社会の実現をめざす。
同市中央区の地下街
「さんちか」の店舗など約
400カ所に取り付けた
ICタグに、国交省のス
タッフが近づくと、手に
持った端末に音声と文字
で「三ノ宮駅直進です」
などの情報が送られた。



体の不自由な人の移動支援やお
店の情報などを表示する端末＝
30日午前、神戸市中央区で

ICタグで安全な町

障害者らの移動支援実験

神戸でスタート



ICタグを利用した携帯端末を利用したデモンストレーション。30日午前11
時、神戸・三宮、さんちか

IT(情報技術)を活用
し高齢者や障害者らが
移動しやすいよう情報を
発信する国土交通省プロ
ジェクトのプレ実証実験
・デモンストレーション
が30日、神戸・三宮の
地下街「さんちか」と京
町筋で行われた。公共空
間での実験は初めてで、
約二カ月間の予定。
「自律的移動支援プロ
ジェクト」震災から十
年目となった神戸が全国
のモデル地域に選ばれ、
今春始まった。専用の携
帯端末を持って歩くこ
道路などに埋め込んだIC
タグ(電子タグ)が現
在地やバリアフリー情報
などを教えてくれるシス
テムづくりを目指す。情
報は音声や画像、文字で
得られるようにする。

プレ実験は、携帯電話
など各種の電波が過密な
街頭で、システムがうまく
動くかなどを点検。専
用の携帯端末と無線通信
するICタグなどは、同
エリアの点字ブロックな
ど計二百五十八カ所に埋
め込まれた。さんちかを
運営する「神戸地下街」
や各店などが協力、各店
の商品情報も発信する。
三十日午前、さんちか
では、プロジェクト委員
会メンバーが、専用の
携帯端末が取り付けられ
た車いすに乗り、プレ実
験エリアを移動した。

自律移動支援プロジェクト 北側国土交通大臣神戸視察(京町筋) 12月13日



白杖(はくじょう)によるデモンストレーション



携帯端末に表示された情報の説明



車いすによるデモンストレーション

平成16年12月14日(火)

建設工業新聞 11面

北側国交相が自律移動 支援プロなど現地視察



説明を受ける北側国交相

北側一雄国土交通相は13日、大阪・神戸の両市を訪れ、スーパー中核港に指定された阪神港(大阪港・神戸港)や建設中の神戸空港、実証実験が行われている自律移動支援プロジェクトなどの現地視察を行った。

北側国交相はこの日、最初に大阪ワールドト

リードセンター(WTC)から大阪港C11ターミナル、堺泉北港などを視察した後、巡視船「こんごう」に乗り、船上から海上保安業務や、大阪港と神戸港のコンテナターミナルを視察。神戸・ポートアイランドではPC18ターミナルと神戸空港の建設状況を視察した。このあと、神戸市中央区の京町筋で、自律移動支援プロジェクトを視察。同プロジェクト推進委員会の坂村健委員長(東京大学大学院教授)から、実証実験の概要や実験に使用されているピコ・ティ・エンジン(Pico-T Engine)について説明を受けた。

視察後、記者団と会見した北側国交相は、自律移動支援プロジェクトで重要な役割を担うユビキタスについて、「誰もが自由にまちを歩けるユニバーサル社会に向け、大きな可能性を持った素晴らしい技術だ」と感想を述べた。また、関西国際空港2期工事の事業費については「07年度供用に向け、予算折衝のヤマ場に来ている」と話した。このほか、大阪国際空港の2種格下げを含めた関西3空港のあり方については「それぞれの位置付けに整合性を持たせた議論が必要だ」との考えを示した。

自律移動支援プロジェクト 平成17年度 実証実験実施箇所(案)



プロジェクトの報道記事

読売新聞の紹介記事／5月27日朝刊

目の不自由な人 音声誘導

[illegible]

1Cタグと携帯端末利用

システム
公開

神戸市がモデル地域

[illegible]

し、利便が図れる。また、
開港は十月、市街地で
数軒シスターを収容する
三、四等客艀に宿舎をな
し、中心のり道にエタタ
なを備え付け、米穀店、一
般市民も参加する社会を
築く。

プロテスタント傳道委員の
報告書に、
「朝鮮国大法院院長は、
左の如く、朝鮮に於て
ある人の位に立つ、宗教
が安んずるべきシスター
を以て、地味モラルを
國に於ては認めてゐる。
シスターの一般開港は二
十七日の十時、開港は
十八日午前十時、正午
と

来春、本格的な社会実験

CV

日経新聞の記事／6月21日朝刊

2004年(平成16年)9月21日(月曜日) 日本経済新聞 2004 (日経)

街のインフラ
情報基地に

歩道に「Cチップ」▼携帯へ発信

[illegible][illegible]

は、知事のため、知事府に
まかすことにし、利用費
から裁判を出していたた
め、二法は廃止して新法
を生かすことにした。

[illegible]

日本經濟新聞

6月21日
月曜日

[illegible]

10月19日～24日



デモンストレーション会場の様子
(ポスト、住所表示板等にICタグを貼付)



デモンストレーション会場の様子
(マーカーによる情報発信)



障害を持った方によるデモンストレーション体験



外国人の方によるデモンストレーション体験

自律的移動支援プロジェクト 21世紀COE次世代ユビキタス情報社会基盤の形成

～ 第2回・ユビキタス場所情報システム・シンポジウム 11月16日



坂村健推進委員会委員長による基調講演
「ユビキタス場所情報システムの可能性」



東京大学安田講堂に聴講者が多数参加



パネルディスカッションの様子
(右:坂村健推進委員会委員長、中央:大石久和プロジェクト顧問、
左:川嶋弘尚推進委員会委員)



テープカット



坂村健推進委員会委員長によるご挨拶

平成16年12月8日(水)

産経新聞 11面

「ユビキタス社会」の到来を予感させる。自律的移動支援プロジェクト「TRONSHOW2005」の開幕式が、東京都千代田区千代田の三井ビルディングで、7日午後7時から行われた。関係者約200人が参加し、テープカットや講演が行われた。

ユビキタス社会 体感 トロンショー開幕

関連技術が成熟

「ユビキタス社会」の到来を予感させる。自律的移動支援プロジェクト「TRONSHOW2005」の開幕式が、東京都千代田区千代田の三井ビルディングで、7日午後7時から行われた。関係者約200人が参加し、テープカットや講演が行われた。

「ユビキタス社会」の到来を予感させる。自律的移動支援プロジェクト「TRONSHOW2005」の開幕式が、東京都千代田区千代田の三井ビルディングで、7日午後7時から行われた。関係者約200人が参加し、テープカットや講演が行われた。

アジア諸国に「活動」広がる

「ユビキタス社会」の到来を予感させる。自律的移動支援プロジェクト「TRONSHOW2005」の開幕式が、東京都千代田区千代田の三井ビルディングで、7日午後7時から行われた。関係者約200人が参加し、テープカットや講演が行われた。

2005年日本国際博覧会「愛・地球博」において、ユビキタスコンピュータ技術を活用した「多言語による会場案内」及び「障害者等への目的地案内」の実証実験を行い、国内外のモニターの方々に実体験して頂く。

● ビジットジャパンキャンペーン 実証実験

長久手会場において、無線マーカー、ICタグなどをを用い「多言語(英、仏、スペイン、中国、韓国など)」で会場案内を行う

対象
訪日外国人

場所
グローバルループ上
(約2.6km)

提供するサービス
多言語(英、仏、スペイン、中国、韓国等)で、会場の位置(パビリオン、トイレ、レストラン)及びパビリオンの展示内容などの情報提供

使用機器
微弱無線マーカー、シールタグ



無線マーカーによる多言語ガイド



ICタグによる情報提供

● 自律移動支援実証実験

瀬戸会場において、ICタグ付き誘導ブロック、太陽電池内蔵タグなどを用い、歩行者支援情報の提供を行う

対象
障害者等

場所
瀬戸会場入口からパビリオン間

提供するサービス
誘導ブロックに設置されたICタグ、アクティブタグから目的地等の案内情報提供

使用機器
ICタグ付誘導ブロック、アクティブタグ、シールタグ



太陽電池駆動の無線マーカー



点字ブロックによる視覚障害者ナビゲーション



平成17年1月14日(金)

中日新聞 31面



パネルを手に愛知万博における実証実験について語られる北側大臣

外国人・障害者に「耳寄り情報」

万博会場案内

音声で端末に

北側一雄国土交通相は十三日、視察先の愛・地球博（愛知万博）会場で、万博期間中に最新のコンピュータ技術を使った「多言語による会場案内」など、外国人や障害者ら来場者向けサービスの実証実験を行うと発表した。

長久手会場（愛知県長久手町）では、外国人らに小型の携帯情報端末を貸与。会場内の空中回廊「グローバル・ループ」に設置した無線発信機や、案内板に張ったICタグ入りシールに反応して、端末内の情報が日本語や英語、韓国語、中国語など多言語に音声化する。

ICタグ使い実証実験

現在地やナビオンの説明を聞くことができ、点字ブロック内のICタグに反応し、つえと連動した携帯情報端末から流れる音声で、ナビオンまでの道案内などをしてもらえるという。

このほか、太陽電池を使った省エネ型の無線発信機で、現在地の情報などを聞くこともできる。

長久手会場を
国交相が視察

北側一雄国土交通相は十三日午後、中部国際空港（愛知県常陸市）に続き、愛知万博の長久手会場（愛知県長久手町）を視察した。

北側国交相は工事中の日本館を見学した後、会場全体が見渡せる高台で担当者の説明を受けた。「自然を残した会場づくりを痛感した。新しい空港に万博、道路ができ、

他県から見たら（愛知県を）うらやましいと思うだろう」と語った。

中部国際空港について「やまから空港ロビーが近く、国際国内線ターミナルが同じなど、細かい工夫がある。障害者にも配慮しており、関西や成田より使いやすいのでは」と話した。

パネルを手に、万博について語る北側一雄国土交通大臣（左）と、愛知県長久手町の万博長久手会場

自律移動支援プロジェクト 北海道での実証実験・シンポジウム



北海道ユビキタス実証実験 in 赤レンガ テープカット



坂村健推進委員会委員長による基調講演
「ユビキタスネットワーク社会がめざすもの」



白杖によるデモンストレーション
(屋外)



赤レンガ内各展示室での坂村健推進委員会
委員長によるデモンストレーションの様子



パネルディスカッションの様子

(右から坂村健推進委員会委員長、大石久和プロジェクト顧問、
小林英嗣北海道大学大学院教授、白石真澄東洋大学助教授、上野宏政策統括官)

平成17年1月25日(火)(夕刊)

北海道新聞 1面

平成17年1月25日(火)(夕刊)

読売新聞 1面

「ユビキタス」
赤れんがで体験

实证实验始末

築港路（ＩＣ）チップにめぐりとコンビニューター・ネットワークから機橋端まで観望結果が送られる「ユビキタス」の実験実験が二十五日、札幌市中央区の道庁赤れんが館で始まった。

同実験は道庁札幌出、国土交通省などとする「公共空間における情報に関する研究会」の主催。全国では神戸市で実験が始まっており、札幌ではＩＣチップの雪崩地での動作確認が目的。

同日午前十一時から開始。概ねゆき知事や市田文雄札幌市長、東大の坂村健教授らが参加して、デモンストラ、続いて、ティンストレッチションが行われ、関係者が機橋端を全周し、ＩＣが埋め込まれた電子ブロックを歩くと一曲がり角が右折先にもあります。」などと細末からと案内が流れた。

赤れんが館内に設置したの機橋端が用意され、観光客道内観光情報などを提供します。実験は三月十一日までの予定。



道庁赤れんが庁舎で始まったコピタタスの実証実験。目の不自由な人には音声情報
が送られる。手前石が坂村教授—25日午前11時30分（加藤哲朗撮影）

ユビキタス 可か

札幌発

どこでもコンピューター社会

携帯端末（コミュニケーション）から、目の前の展示物の説明が流れ、動画も表示される。ネットワーク技術を用いる。豊かな情報を入力できる「ユビキタス実証実験」が、二十五日、札幌市の道庁赤れんが庁舎で始まった。

道庁赤れんがで
実証実験を開始

ユビキタス社会への理解を深めてもらおうと、道や北海道開発局などが行う。

庄室内に展示してあるアサ
ラシのはく製など二十点以上
にICタグ（電子荷札）を取
り付け、携帯端末が情報を読
み取る。すると、アサラシの
生活の様子が動画で再生され
たり、鳴き声が流れたりする。

日本語のほか、中、韓、英語で、便利で、人にやさしい社会が実現する」と、ユビキタ

また、玄關前の点字フロックス社会を推進する東京大の坂村健教授は話している。

取に愛麗、縫ひ込んだ白い
えが、階段があることなどを
音声案内する。

で、観光客の多い目などを選
び、コミュニケーターを四十

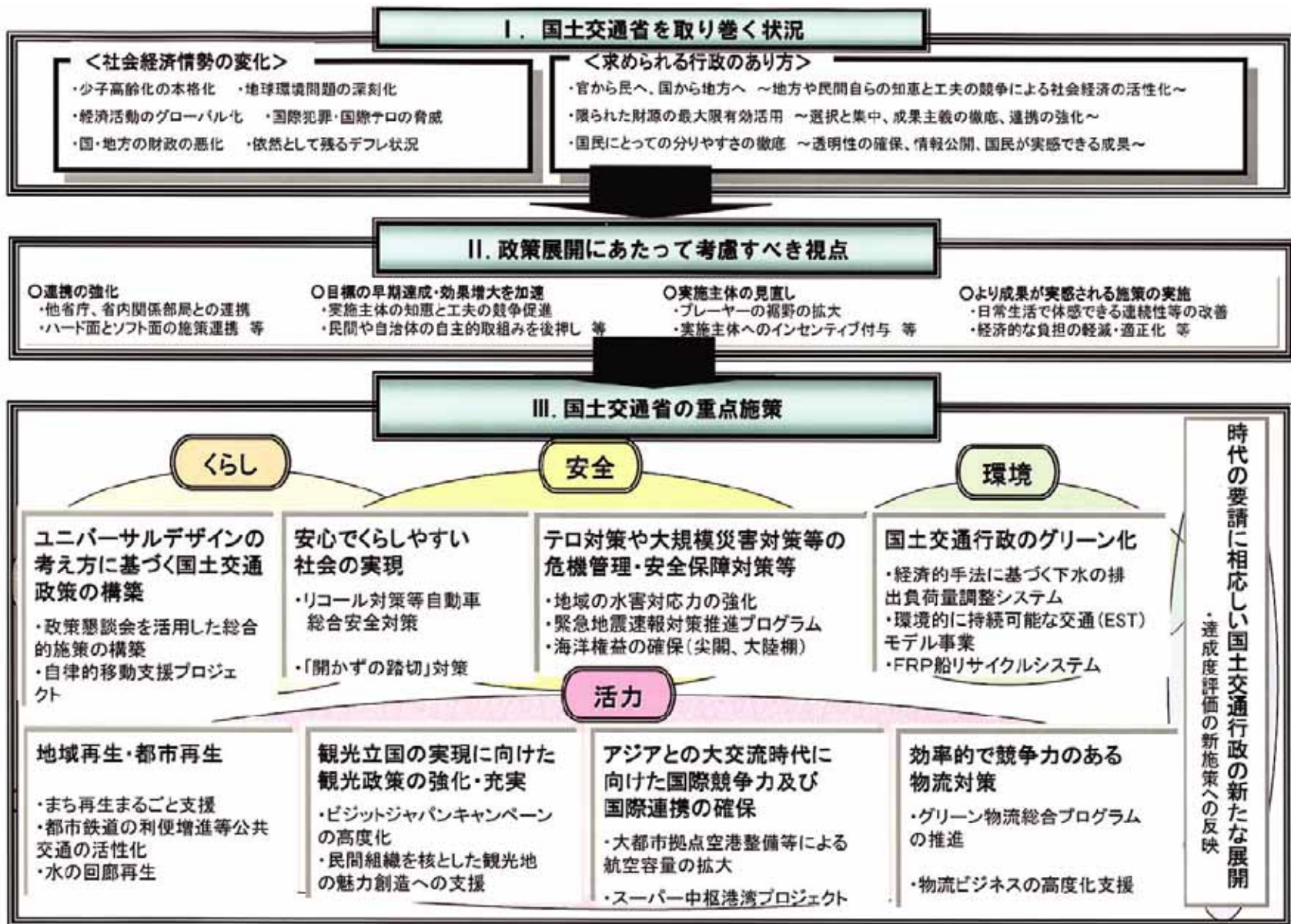
「このような」どこでもコ
台書し出して使い勝手などの
ンピューター』の活用によっ
アンケート調査も行う予定。

「ユビキタス」ことにも存在する」という意味のラテン語が語源。身の回りのあらゆるものにＩＣタグやコンピュータを組み込んでネットワーク化する。所在を知らせたり、視覚障害者の移動を、音声案内で助けたりするなど、効率的で便利な社会を実現するのが目的。



携帯端末を使って行われた視覚障害者の誘導実験（道庁赤れんが庁舎で）

自律移動支援プロジェクト 国土交通省 平成17年度重点施策(抜粋)



ユニバーサルデザインの考え方に基づく国土交通政策の構築

【背景・課題】

○本格的な高齢社会の到来、少子化の一層の進展、くらしの質的向上に対するニーズの高まり

＜バリアフリー化の現状＞

▶旅客施設※の段差解消 39.4%(平成14年度末)

→ ＜目標値＞ 70%強(平成19年度)

100%(平成22年度)

▶建築物※のバリアフリー化の割合 約3割(平成14年度末)

→ ＜目標値＞ 約4割(平成19年度)

※床面積2,000㎡以上の特別特定建築物が対象

※1日の利用者数5,000人以上が対象

ユニバーサルデザインの施策の構築 ～どこでも、誰でも、自由に、使いやすく～

バリアフリー施策のバージョンアップ

政策懇談会の開催

高齢者、障害者、事業者、地方公共団体等関係者と協働して政策を立案

バリアフリー化支援メニューの拡充

- ・市街地のバリアフリー化事業のための計画と、交通バリアフリー基本構想との連携強化
- ・駅の乗降客用にバリアフリー化を行う隣接の民間建物への直接補助の創設
- ・全国の見本となるバリアフリー重点整備地区の道路に特別支援(3年を限度、全国数カ所)

「心のバリアフリー」の実現

- ・バリアフリーボランティアモデル事業の実施
- ・バリアフリー人材育成プログラムの実施
- ・交通バリアフリー教室の拡充

施設や設備等のバリアフリー化のみならず、全ての人が、自立し、安心して暮らし、持てる能力を最大限に発揮できるまちを目指して、国土交通省の総合的な施策を構築

- ・障害の有無や年齢、経験、言語等にかかわらず活動できる生活環境を整備
- ・公共施設整備におけるユニバーサルデザイン化を進め、連続的に移動の自由が確保されたシームレスな空間を形成
- ・個々の施設や建築物が備えるべきユニバーサルデザインの検討
- ・情報提供や人材育成などの分野における取組みの強化
- ・新しい成果目標の設定(利用者の満足度に関する評価等)

自律的移動支援プロジェクトの推進 (別1)

- ・ICタグ等IT技術を用いた自律的移動支援システムを検証し、官民が共同して参画できるシステム仕様等を策定



自律的移動支援プロジェクトの推進

- ◇ ユニバーサルデザインのまちづくりに向け、誰もが安心して快適に移動できる環境をつくりあげる
- ◇ ITを活用し、「いつでも、どこでも、だれでも」が移動時に必要な情報を利用できるシステムを構築
- ◇ 関係省庁との連携のもと、民間活力を最大限活用して実証実験を実施し、官民が共同して参画できるシステム仕様等を策定

社会のニーズ

安心して移動できる環境整備

- ◇ 高齢者、障害者等の社会参画機会の確保
- ◇ 観光客の受入環境の整備

技術のシーズ

ITの急速な進展

- ◇ ICタグ等の情報発信機器の小型化、低価格化、高機能化
- ◇ 携帯電話の普及、ブロードバンド環境の整備

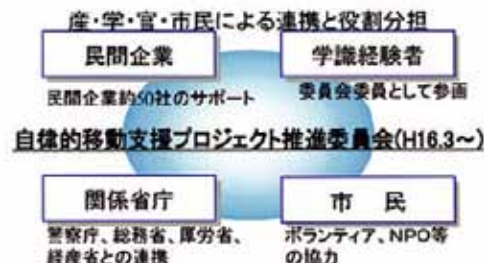
ITの活用によるハード・ソフトの一体化

場所が話しかける新しいサービスを実現

身体的状況に応じて移動経路、交通手段、目的地等の情報を必要な形でリアルタイムに提供



関係機関等との連携のもとオープンな環境でつくりあげる



オープンなシステムでつくりあげる

実証実験を積み重ね技術を研鑽

汎用性・拡張性のあるシステム

民間等サービス創出

国際標準(Global Standard)をめざす

わが国の最先端技術を世界に発信

◇スケジュール

H16年度

情報提供項目等システム検討
現地検証(神戸)

H17年度

支援システムの検証
仕様の策定

逐次
各地に
展開

ユニバーサルデザインのまちづくり